

平成30年度第2回弘前市まちづくり1%システム審査委員会 会議録概要

日 時：平成30年9月15日（土）

午前8時45分～午後4時50分

場 所：市役所市民防災館4階食堂（レストラン Pomme）

出席者：審査委員 土井委員、安田委員、鴻野委員、齋藤（秀）委員、藤田委員、
柴田委員、山形委員、齋藤（紀）委員、下總委員、垣内委員、
三橋委員、熊木委員、一條委員、木田委員（事業番号9から）、
川村委員

市民協働政策課 佐藤課長、堀川補佐、中村係長、齋藤主査、阿保主査、村上主事、
菊地主事

1 公開プレゼンテーション・審査会

<プレゼンテーション・審査方法>

・1事業ごとに公開プレゼンテーション・審査を実施。（審査は採点方式によって決定。）

ただし、申請金額が20万以下の事業については、公開プレゼンテーションによる事業説明を申請団体の任意とする。事業説明を希望しない場合は、市の担当者による事業説明を実施する。

・審査委員が申請団体に所属する場合は、プレゼンテーションから審査まですべて外れる。

（公開プレゼンテーション有）

1. プレゼンテーション …15分程度
(7分以内で事業内容の説明。残り時間で質疑応答)
2. 審査 …20分程度
(事業内容・金額について審議後、採点表に記入)
3. 採点結果発表 …採点表集計後、休憩ごとにまとめて発表

（公開プレゼンテーション無）

申請団体のプレゼンテーションによる事業説明を省略し、1事業につき15分程度とする。（7分以内で市担当者による事業説明。残り時間で質疑応答）

【審査項目】

| 審 査 項 目 | |
|---------|---------------------------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない |
| | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている |

| | |
|--------|--|
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している |
| | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている |
| 実現性 | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性（継続事業については発展性）が期待できる |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる |

【審査採点】

| 区 分 | 評 価 |
|-----------------------|-----|
| 高く評価できる | 10点 |
| 「高く評価できる」と「普通」の間の評価 | 8点 |
| 普通 | 6点 |
| 「普通」と「あまり評価できない」の間の評価 | 4点 |
| あまり評価できない | 2点 |
| 評価できない | 0点 |

【決定方法】

採択…出席委員の合計の平均点が60点以上、かつ、各審査項目の平均点が3点以上

《審査内容》

●5：三大地区地域・子ども見守り活動／三大地区地域づくり連絡協議会

【質疑応答（抜粋）】

Q：地域の担い手が不足している中で、どのようにしてボランティア安全サポート員を増やしているのか教えていただきたい。

A：PTAの生活指導員、教員、各町会から募っている。PTA役員などは年々変わっていくが、活動を続けていくことによって、形に関わらず参加してくれる人が増えていくことを期待している。

【主な意見】

- ・区画整理されている地区とは違い、道路が込み入っている箇所が多いので、非常にありがたい活動だと感じる。また、同じベストを着用することは、参加者のモチベーションの向上にも有効なアイデアだと思う。
- ・たくさんの人が通る場所でベストを着用し目立つことで、活動が広く伝わっていく啓発的な要素もあると感じる。
- ・危険箇所の地図を作成して地域で共通理解した上で、ベストを購入してさらに活動を深めていこうという、順を踏んで地域に活動を浸透させる手法に感銘した。

【採択結果】

合計点 85.0 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択 (申請額どおり)

※審査委員 14 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 8.1 |
| | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている | 9.0 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している | 9.0 |
| | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている | 8.4 |
| 実現性 | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である | 8.1 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 8.7 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 8.4 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 8.0 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている | 8.3 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 8.9 |
| 合 計 | | 85.0 |

● 1 : 大成小学校区内の通学路等における見守り活動/たいせいクマノミ隊

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 団体の構成員にはどのような人がいるのか教えていただきたい。

A : 結成当初主体となっていたPTA、そのOB、現大成小の教員、町会の交通安全委員会・防犯協会、商店業組合の青年部、老人クラブのメンバーなど、学区内の様々なかたに協力してもらっている。

Q : 決められたスケジュール以外に日常的に行われている見守り活動や、今後の対応について考えがあれば教えていただきたい。

A : 危険箇所の確認などをそれぞれ行っている。また、不審者情報があった当日以外にも、自宅近辺など可能な限りは見守りをしてもらうようメールで連絡する体制ができています。今後人数を増やして、一人でも多く見守りに参加してもらえようようにしたい。

Q : ベストの運用の仕方として、見守り活動以外の外出でも日常的にベストを着用するなど、工夫してみてもどうか。

A : まず学区に活動を浸透させて認知してもらい、より多くのメンバーが参加することで違和感なく着ることができて、自然とそのような流れになると思う。前向きに検討をしたい。

【主な意見】

- ・ほかの小学校も含めて、見守り活動は大人が子どもたちのことを考えているという姿勢を見せる機会としての役割もある。また、子どもたちがそれを知ることは、自分の身を自分

で守る意識の醸成にもつながっていくと思う。

- ・目印がないとその地域の人だと判別できない現状もあるので、見守りだけでなく、日常的に地域の人たちと子どもたちが接する機会と連携して発展させていけば、いずれベストが不要になる日がくるかもしれない。

【採択結果】

合計点 80.9 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 13 名で審査採点（藤田委員は審査から外れる）

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 8.0 |
| | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている | 8.6 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している | 8.3 |
| | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている | 7.8 |
| 実現性 | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である | 7.7 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 8.3 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 7.7 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 8.0 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている | 8.0 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 8.5 |
| 合 計 | | 80.9 |

- 6 : ひろさきの「古い街並み写真」の水彩写生を通じて街並をアーカイブする重要性を再認識しよう 「みんなで描こう ひろさき『古街（ふるまち）』百景」

／津軽ひろさきマーチング委員会

【質疑応答（抜粋）】

Q：平成31年度までの支援を予定しているとのことだが、それ以降もずっと講師を招いて事業を行うのか、将来的な考えについて教えていただきたい。

A：初回は、専門的な知識に長けているかたから、手法や感性から出てくる色の伝え方・描き方などについて指導していただきたいと考えた。今後は地元の水彩画家や小中学校の先生を講師として招きたいと考えている。

Q：カレンダー用イラストの作成について、講師謝礼は不要なのか。

A：今後団体が所有して使用・販売するため、対象外経費とした。

Q：白黒写真の収集について、すでに集められている260枚に加えて募集する予定はあるか。その場合、管理・保管・返却などはどのように行うのか教えていただきたい。

A：今回使う写真は、青森県史編さんグループと郷土文学館から主に借りる予定で準備を

進めているため、これ以上の募集は行わない。次年度開催するとき使用する白黒写真の募集は、カレンダーへ記載して行う予定である。

【主な意見】

- ・古い写真の展示会はよくあるが、さらに多世代交流によって水彩画を描くという点がすごく面白いと感じた。また、描く人によって別の絵ができあがる点に大変魅力を感じた。
- ・今後まち歩きや歴史学習、景観学習と結びつけて、発展させていくこともできると思う。
- ・昔の写真は白黒しかないなので、色が付いた状態に再現されたものを見られると、記憶がある人はすごく感動するのかもしれない。楽しみな事業である。

【採択結果】

合計点 73.4 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 7.0 |
| | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている | 7.7 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している | 6.7 |
| | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている | 6.6 |
| 実現性 | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である | 8.0 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 7.7 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 7.4 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 7.3 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている | 7.7 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 7.3 |
| 合 計 | | 73.4 |

● 8 : 冬に咲くさくらライトアップ/冬に咲くさくらライトアップ実行委員会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 冬季の開催なので、実施内容が天候に左右されないか。

A : 昨年実験的に実施したことで、見え方などにどの程度影響するかすでに把握している。また、何度も足を運んでくれるかたに対して、新たな驚きを提供したいと考えていることから、天候に関係なくきれいに見えるような演出が必要だと考えている。

Q : 返礼品作りの部分が、市民が参加することによって一番盛り上げることができると考えられるが、さらに何か市民参加の方法について考えていることがあれば教えていただきたい。

A : 見に来たかたの反応から見頃だと判断したらゲリラ的に撮影会を行うことや、他団体

によって盛り上がりつつある仕掛けとの連携などを考えている。

Q：基本的に桜色で演出するようだが、雪の白色や他の色でのライトアップは行わないのか。

A：弘前公園はかなりの面積があるので、桜色だけに限定せずに、様々な色で万華鏡のように見せる演出など、工夫次第でなんでもできるのではないかと考えている。

【主な意見】

- ・昨年実施していたとき、SNSなどで色々な人がみて反響があると、自分も嬉しく感じた。クラウドファンディングで市民のみなさんが関われる幅が広がっているのはいいことだと思う。
- ・SNSやクラウドファンディングを通して、情報が世界各地に発信されて広がっていくが、その反面、地域への周知が狭くなる可能性があるため、アクションの取り方は留意していくべき点だと思う。

【採択結果】

合計点 73.1 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 8.0 |
| | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている | 7.6 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している | 6.9 |
| | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている | 6.6 |
| 実現性 | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である | 7.7 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 7.9 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 7.0 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 7.9 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている | 6.9 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 6.9 |
| 合計 | | 73.1 |

● 10：WAのりんご ～もっとりんごを身近に～／Aプロジェクト

【質疑応答（抜粋）】

Q：2月に開催するシードル講座について、雪灯籠まつりと時期が重なっているが、市外の人に向けた情報発信は考えているのか、それとも市民によりよく知ってもらうことを突き詰めていくのか、方向性を教えていただきたい。

A：基本的には市民に向けて活動するが、ホームページを見て市外から参加したかたもい

る。りんごを作っている地域だけでなく、りんごに興味があるかたにどんどん参加してもらい、広がってほしいと思っている。

Q：活動の期間を10月～翌年3月としているが、りんごが花をつけて育っていく期間と重ねて、リアルタイムに何かすることは考えているか、今後の展望とあわせて教えていただきたい。

A：りんごが商品になるまでの期間は、団体としても勉強して育っていく期間だと考えている。りんごが市場に出てみなさんの手に届くタイミングで、団体も活動を始めるという流れがいいと思い、3次募集に応募している。今後の活動の1つとして、りんごの花を使った押し花やお茶、りんご紅茶、アロマやポプリなどやってみたいという人もいたので、勉強して取り入れてみたいと思う。

Q：りんごそのものではなく、収穫されて出荷されるまでの間の技術について、あまり出回らない情報だが他県にも広がっている優れたものもあるので、ぜひこの機会に紹介していただきたい。

A：まだ実現には至っていないが、丸一日かけたバスツアーも考えている。りんごを翌年の夏ごろまで市場に売り出すための技術など青森のりんご産業が培ってきた技術もあるので、自分たちも勉強して、広く知ってもらえるような企画ができればいいと思っている。

【主な意見】

- ・様々なイベントを行っていくうえで、参加者がどれだけ知識を持っているか自覚できるように、事前にアンケートやクイズを配って集計することで、より発展できる事業だと思う。
- ・最近シードルは毎年のように新しいものが出ているので、ぜひ情報を発信するのきっかけをつくっていただきたい。
- ・弘前で生産されたシードルは、ほとんど県外で消費されているという現実がある。地元のものを使おう、盛り立てようという意識が全体的に足りないように感じるので、発信の先立ちになっていただきたい。

【採択結果】

合計点 69.7 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 14 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 7.1 |
| | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている | 7.3 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している | 7.0 |
| | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている | 6.3 |
| 実現性 | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である | 7.4 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 7.4 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 6.7 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 6.6 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている | 7.0 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 6.9 |
| 合 計 | | 69.7 |

● 7 : ずぐり・フラフープ回し体験／特定非営利活動法人 藤代地域ふれあいの会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 月に1回1時間ずつフラフープをやることになっているが、楽しいのもっとやりたいという希望が出た場合、場の提供は可能なのか教えていただきたい。

A : 現在すでに、別の軽運動を行うため高齢者が40人ほど集まる機会があるので、そこで広めていきたいと考えている。

Q : 大会の参加賞について詳しく教えていただきたい。

A : 子どもには200円分でノートと鉛筆など文房具を用意し、大人にはティッシュを考えている。ずぐりやほかの活動を楽しんでいる様子があるが、やはり子どもでも大人でも、何かもらえとなると反応が違う。

Q : 参加者へ何かやってあげる、ものをあげるだけではなく、活動の場を提供することに対しての参加費を徴収することは考えているか。

A : 関係機関の協力も得ながら、ある程度の参加費を徴収しようという話は出ている。

Q : 参加賞を団体が用意するのではなく、参加者から余っているものを寄付してもらうのはどうか。

A : 参考にする。地域の町会連合会や体育協会などと連携することで、もっと上手く運用できるのではないかと考えている。

【主な意見】

- ・ 伝統工芸を残すことや、高齢者が子どもたちへ昔のことを伝えていくきっかけとして、ずぐりを取り上げたのは面白い。

- ・プログラムを提供するのではなく、参加者がやりたいことを実現し、継続していくという姿勢をとっても高く評価したい。多世代をつないでいくということは、世代間交流だけでなく、町会としての結びつきをきちんと育てていく基本の活動にもなると思う。
- ・このような組織の存在は町会活動をさせる機能として存在していると思うので、町会とお互いの存在を認め合って予算の点で補い合うなど、地域全体での広がりをもう少し組み立てていく方向性も、長期的視点としてあってもいい。

【採択結果】

合計点 72.1 点 ≥ 60.0 点 ⇒ 採択 (申請額どおり)

※審査委員 14 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 7.0 |
| | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている | 7.9 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している | 7.1 |
| | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている | 7.1 |
| 実現性 | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である | 7.1 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 7.6 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 7.1 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 7.1 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている | 7.0 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 7.0 |
| 合計 | | 72.1 |

- 9 : 防災・減災・地域づくり事業「第2回 自由ヶ丘町会 自主防災会 避難訓練事業」
 /自由ヶ丘町会 自主防災会

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 町会が主体となった自主防災組織だと思うが、町会自らの自主財源の掘り起こしはどの程度考えているのか、地域の理解にもつながると感じるので教えていただきたい。

A : 人命に関わる事業なので、どんどん増やしていきたい。団体内で相談しながらになるが、5万円ほどなら可能だと思うので、今後は自主財源を用意したい。

Q : 回数を重ねて参加者が慣れていく中で、ペットを連れての避難についてどう考えているか教えていただきたい。

A : 市の防災訓練でも対応しているとのことなので、避難所の近くにペット専用の場所を用意できれば一番いいと思っている。ただ、アレルギーがある人や苦手な人もいるので、建物の外へ用意して触れ合えるようにしたいと考えている。

Q：今回の炊き出し用として、皿やコップ、割りばしなど用意するとのことだが、実際に災害が起きたときのための備蓄はあるのか教えていただきたい。

A：昨年度のもの若干残っているが、備蓄はほぼない。学校にも備蓄はないとのことなので、実際に避難するときは持参したもので対応することになる。

【主な意見】

- ・幸い自然災害が少なく、このような機会でもないと集まらない地域もあると思う。夏祭りとは別のタイミングで行う、イベントに近いものと考えてもいいのかもしれない。
- ・実際に防災のために動いている町会が少ないという点からも、弘前は全体的に防災意識が低いように感じる。隣近所の町会がぽつぽつ活動していくことで、防災意識の啓発や防災訓練を身近なものにすることへつながると思う。
- ・実際に災害が起きたときに避難場所となる学校へ入っていくことができるのはすごくいいと思う。学校側との交渉はハードルが高いと思うので、今回の事業がいろんな町会の参考になり、学校側と地区の防災士との連携が密になることを期待する。
- ・町会の避難場所から市指定の避難場所までのルートで想定される被害をシミュレーションしてもよいのではないか。

【採択結果】

合計点 73.1 点 \geq 60.0 点 ⇒採択（申請額どおり）

※審査委員 15 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 7.5 |
| | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている | 7.6 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している | 7.7 |
| | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている | 7.2 |
| 実現性 | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である | 7.3 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 7.2 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 7.5 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 7.2 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている | 6.7 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 7.2 |
| 合計 | | 73.1 |

●2：身近な地域のリサイクル推進セミナー／特定非営利活動法人もったいないつがるの会

【質疑応答（抜粋）】

Q：対象地域の町会の回覧板を通して、各世帯にセミナー参加を促すという方法について、町会連合会とすでに打ち合わせは済んでいるのか教えていただきたい。

A：採択されたら打ち合わせを行うという段取りで考えている。

Q：モニターレポートを依頼する「廃棄物減量等推進委員」について、普段の仕事のほかに負担が増えることになるが、報酬などは考えていないのか教えていただきたい。

A：レポートの提出を負担ととらえられてしまうと、活動自体が進まないと思う。快く引き受けてくれるかたは少ないかもしれないが、できる範囲で参加していただきたいと考えている。また、現状がデータ化されることによって、今後の対策も考えやすくなると思っている。

Q：事業者へセミナー開催のチラシを郵送するとのことだが、具体的にどこの事業者を想定しているのか教えていただきたい。

A：市のごみで一番問題になっているのは事業系のごみであるということから、介護関係の事業所や病院など、生ごみを排出するところへ郵送する。

【主な意見】

- ・必要な活動ではあるが、少し思いが先走り過ぎていると感じる。すでに市として答えがある課題に対してさらに市民に意見を問うというのは、啓蒙活動を超えていると思う。一回立ち止まって原点に立ち返り、見つめ直していただきたい。
- ・ごみには地域性がある、周りの環境や処理のやりかた、財源など、経済のプラスマイナスも考えながら進めていかなければならないデリケートな問題である。できることから少しずつ取り組んでいる人がいることにも目を向けていただきたい。
- ・従来のスーパーなどで声をかけて興味を持った人に対してという手法だけではなく、町会という新たなルートを開拓し、地域に出向いてセミナーを開催してごみの減量化を地域から根付かせようとする試みは評価できる。

【採択結果】

合計点 50.4 点 < 60.0 点 ⇒不採択

※審査委員 15 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 5.5 |
| | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている | 6.3 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している | 5.7 |
| | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている | 4.9 |
| 実現性 | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である | 4.3 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 4.4 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 4.5 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 4.9 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている | 4.8 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 5.1 |
| 合 計 | | 50.4 |

● 3：ウェイスト アート弘前キッズ教室／特定非営利活動法人もったいないつがるの会

【質疑応答 (抜粋)】

Q：子どもたちに興味を持ってもらうためにアートの手法を使うという構図は理解できるが、実際どれくらい「子どもたちが楽しめる」という確信をもってこの手法を選んだのか教えていただきたい。

A：以前別の事業で行った際は、とても食いつきがよく、素通りする子どもはいなかった。理屈でなく楽しそうな様子を見て、確信を得た。

Q：アートがエコにつながるという一連の流れは、子どもたちが理解できるものなのか。

A：実物を目の前で見せたりやりかたを教えたり、メーカーのチラシも活用して理解につなげていきたい。

Q：児童クラブやなかよし会など、児童が集まってすでに活動しているところと連携して、想いを伝えて活動を広げていくことは考えているか。

A：必ずしも自分たちが指導しなければいけないということはないので、そろそろ連携も考えていきたいと思っている。

【主な意見】

- ・手法について、保育園児向けに保育園で先生と一緒に行うのであれば楽しんでもらえるかもしれないが、対象が小学生となると食いつきが弱いのではないかと思う。
- ・会場として小学校の教室をひとつ借りて、出向いて実施すると小学生が参加しやすいと思う。
- ・資源の循環に関して、子どもたちにアートを通して興味を持ってもらい、意識の向上へつなげたいという姿勢は理解できる。

- ・資金調達にもつなげられることなので、理解者を増やしていく努力や、ネットワークを広げて他団体と連携を図っていくことがもう少し必要だと思う。

【採択結果】

合計点 47.9 点 < 60.0 点 ⇒ 不採択

※審査委員 15 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 5.5 |
| | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている | 5.3 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している | 5.7 |
| | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている | 4.8 |
| 実現性 | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である | 4.1 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 4.4 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 4.5 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 4.5 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている | 4.8 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 4.1 |
| 合 計 | | 47.9 |

● 4 : 第5回弘前城リレーマラソン 冬の陣/特定非営利活動法人 スポネット弘前

【質疑応答 (抜粋)】

Q : 昨年と比べて、計測システムの費用が増えているが予算が大きく変わらないのは、どの費用を圧縮し工夫したのか教えていただきたい。

A : 全体から少しずつ捻出したことと、自己負担を増やした部分でまかなった。来年度以降参加費を上げるかどうかは、今年度の結果を見て検討しようと考えている。

Q : 計測システムを導入することについての、妥当性など教えていただきたい。

A : 「冬の陣」は一斉にスタートして、3時間後一斉に終了するので、終了時にどこにいるかが非常に重要になってくる。アップルマラソンなど、ほとんどの大きな大会で計測システムを導入しており、夏の大会での実績も含め、正確性・信頼性が高いことやホームページなどのオプションが付随すること、宿泊代・交通費込みでスタッフが雇えることも考慮して業者を決定した。

Q : 夏のリレーマラソンと冬のリレーマラソン、参加者は重複しているのか。

A : 半分くらい重複している。むしろ冬だけ参加する人のほうが多い。

【主な意見】

・特になし。

【採択結果】

合計点 78.9 点 \geq 60.0 点 \Rightarrow 採択(申請額どおり)

※審査委員 15 名で審査採点

| 審査項目 | | 評価 (平均点) |
|--------|--|-------------|
| 公益性 | ① 事業の効果が特定の者に限定されない | 7.9 |
| | ② 社会公共的なまちづくりや地域づくりのためのものになっている | 7.9 |
| 必要性 | ③ 地域社会における課題を的確にとらえ対応している | 7.5 |
| | ④ 地域の状況や市民ニーズに即した対応をしている | 7.6 |
| 実現性 | ⑤ 事業の計画が具体的で、実施手段や体制などが合理的である | 8.4 |
| | ⑥ 提案されている事業が実現可能なものとなっている | 8.4 |
| 将来性 | ⑦ 事業効果が一過性ではなく、継続性(継続事業については発展性)が期待できる | 8.3 |
| | ⑧ 将来的に広く波及効果が期待できる | 8.0 |
| 費用の妥当性 | ⑨ 予算が具体的で、事業の内容・規模に合った予算になっている | 7.7 |
| | ⑩ 市民の貴重な税金を使うことによる効果が認められる | 7.3 |
| 合 計 | | 78.9 |

3次募集事業の審査結果(10事業) 9月15日審査合計

採択とする事業 8事業

不採択とする事業 2事業